

山本 光明 議員

(一括質問方式)



- ①能登半島地震への対応と本市の防災対策について
- ②住みよいまちづくりについて
- ③観光とまちづくりについて
- ④ＪＲ伊予大洲駅前広場、駐輪場整備について
- ⑤教員の働き方改革について
- ⑥市立大洲病院における訪問看護ステーションについて

激特事業後の内水対策などの問題点と対応策について

問 西日本豪雨災害を受けた肱川の河川激甚災害対策特別緊急事業、いわゆる激特事業により、堤防整備などは間もなく完成するが、内水対策など、今後の問題点とその対応策をどう行っていくのか。

答 激特事業による堤防完成を見据え、令和４年３月に大洲市内水対策計画を策定し、今年度から一部事業に着手しています。今後は可能な限り計画の前倒しによる事業の推進を図りたいと考えています。

なお、激特事業後には、河道の流下能力が向上するため、鹿野川ダム・野村ダムの操作規則の変更が予定されており放流量の増加が見込まれます。このため、氾濫危険水位や避難判断水位の見直しが課題となりますが、国及び愛媛県と協議を行いながら、安全な避難情報の発令基準の設定となるよう協議を進め、今後は内水も含めた洪水ハザードマップの更新作業に取り組んでいきたいと考えています。

市町村合併・大洲城天守復元20周年の記念事業について

問 来年度は市町村合併で新大洲市が誕生して20年目を迎え、さらに大洲城天守復元20周年にも当たる節目の年となる。記念のイベント行事等も計画をされているが、その計画の内容は。

答 合併20周年記念事業については20事業を予定しており、大洲市民の一体感をより深めるとともに、今後のさらなる発展を目指し、市内外に大洲市の魅力をアピールしたいと考えています。

新規事業としては、記念式典をはじめ、市内の小中高生から大洲市の魅力を表現したキャラクターを募集するご当地キャラクターデザイン募集事業、合併30周年に向けて10年後の自分や家族、大切な

人への手紙を送るタイムカプセル郵便事業、新たに整備する官民共創推進拠点施設を活用したアントレプレナーシップ（※新しい事業を創造し、リスクに挑戦する姿勢）教育を実施することで、高校生を中心に起業意識を醸成する高校生起業家育成事業や、ハゼの細道プロジェクトを予定しています。

大洲城天守復元20周年記念事業は、天守復元の実現に至った経緯、歴史を振り返り、次の時代を担う若い世代へのまちづくり精神の継承を図るため、新年度の秋頃に20周年を祝う記念式典を実施するとともに、大洲城復元への歩みとその後の活用をテーマとして、観光まちづくりシンポジウムの開催を計画しています。

また、指定管理者とも協働して、20周年記念御城印の販売や、市民に対して入館料を無料とする無料開放デーなどの事業を実施していきたいと考えています。

肱南地区の観光における地域住民との連携について

問 肱南地区における歴史的資源を活用した観光まちづくりは、世界の持続可能な観光地TOP100選に2年連続で選定されるなど世界でも認められているが、地元住民、総じて大洲の住民の理解と協力があってこそその町並み保存であり、地元住民との連携も深めてもらいたいと思うが、いかがか。

答 市が広く市民向けに行っているものとして、令和４年度から観光によるまちづくりへの理解を深めていただくためのシンポジウムを開催しています。令和４年度は177人、令和５年度は191人と多くの方に参加いただいています。

また、地域DMOのキタ・マネジメントの取組においても、令和５年度から観光庁の補助金を活用して、本市の持続可能な観光まちづくりの取組を学ぶことのできる住民向けツアーを企画、本年度は12月に２回開催し、令和６年度も４回程度開催することを予定しています。このほかにも、地元住民との連携促進やまちづくりへの理解を深めていただくことを目的に、主に肱南地区の事業所を対象にした大洲まちづくり大学が毎月１回開催されています。この会では、外部有識者による基調講演や参加者が見聞きした地域の方からの意見を踏まえた地域との関わり方について話し合っています。